

北

のふれ

愛



「美唄川の変遷 —古地図での検討—」



図1 蝦夷全図



図2 北海道実測図



図3 ビバイイクシュンベツ川



図4 美唄川の変遷

美唄川は、古地図をみると現在とは全く異なる様相であることが解明できます。図1は、「蝦夷全図」です。それには「ヒハイ」川（現在の旧美唄川）の上流には「イクシュンベツ」川が描かれています。

イクシュンベツ川は、岩見沢や三笠の幾春別川が有名ですが、美唄にもあったのです。

この図のリービタラの隣に描かれている沼は、「北海道実測図」にも描かれています（図2の矢印部）。

当時は、石狩川に沿った、現在は支流と考えている方がビバイ川で、現在の本流と考えている方が支流であったことになります。

「イクシュンベツ」は、現在でも「ビバイイクシュンベツ川」として存在しています（図3）。その支流は、「ゴクドウ川」という、何とも驚くような名前です。

その上流部には、巨大な川の痕跡があります（図3の矢印部）。このことと図1の「イクシュンベツ」の描き方から、ここにかつては本流があったことが推定できます。

美唄川は、河川改修により下流部が石狩川にショートカットされ、旧美唄川が本来の川です。

このことを考慮して描いたのが図4の「美唄川の変遷」です。白抜き矢印方向に変遷したと推定しました。

地理学の方では、美唄川の流れが何度も変化したのは有名なことのようにですが、古地図からもその変遷の一部を推定することができることを、今回、示してみました。（平隆一 記）